

氏 名 (本 籍) 植 西 敏 浩 (京 都 府)
学 位 の 種 類 博 士 (医 学)
学 位 記 番 号 博 士 (論) 第 3 1 4 号
学 位 授 与 の 要 件 学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
学 位 授 与 年 月 日 平 成 1 5 年 9 月 1 0 日
学 位 論 文 題 目 Role of foods in irregular aggravation of atopic dermatitis
(アトピー性皮膚炎の不定期的に悪化における食物の関与)

審 査 委 員 主 査 教 授 瀬 戸 昭
副 査 教 授 藤 山 佳 秀
副 査 教 授 小 笠 原 一 誠

論文内容要旨

*整理番号	317	(ふりがな) 氏名	(うえにしとしあき) 植西 敏浩
学位論文題目	Role of foods in irregular aggravation of atopic dermatitis (アトピー性皮膚炎の不規則的悪化における食物の関与)		
<p>【目的】 アトピー性皮膚炎患者の約半数において、数日から数週の間隔で皮膚炎が不規則的に悪化することを我々は明らかにしている。しかし、この不規則的な悪化を引き起こす因子は、現在までのところ明らかにされていない。</p> <p>一方、食物が本症の悪化に関与することは、古くから報告されている。しかし、食物によって皮膚炎が悪化する本症患者は 2% という報告から 80% という報告まであり、報告によって結果に大きなばらつきがある。過去の報告では、対象患者の選択、検査方法、評価基準に統一性を欠いていることが結果のばらつきの原因となっている可能性が考えられる。</p> <p>本研究の目的は、皮膚炎の不規則的悪化を示す本症の成人患者において、食物が不規則的悪化に関与しているか否かを明らかにすることである。</p> <p>【方法】 皮膚炎の不規則的な悪化を示す成人アトピー性皮膚炎患者 195 例 (男性 81 例、女性 114 例; 年齢: 16-53 歳) を選んだ。</p> <p>皮膚炎を悪化させる食物の候補: 患者に毎日の食物と皮膚炎の状態を 2 カ月間記録させた。皮膚炎の不規則的悪化の当日あるいは前日のみに摂取されている食物を皮膚炎を悪化させる食物の候補とみなし、2 週間摂取を禁止した。</p> <p>投与試験: 入院の上、皮膚炎を悪化させる食物の候補を 1 種類ずつ朝食時にオープン試験で投与した。投与して 1 時間後、2 時間後、4 時間後、10 時間後、24 時間後、48 時間後に皮膚炎の状態を観察した。皮膚炎の悪化を客観的に評価するために、除去前、投与前、投与して 48 時間後に写真を撮影した。皮膚炎の状態を、著明な悪化 (50% 以上の悪化)、中等度の悪化 (25%~50% の悪化)、軽度の悪化 (25% 未満の悪化)、変化なし、改善の 5 段階に分けて評価した。皮膚炎が著明な悪化または中等度の悪化を示した場合、投与試験陽性と判定した。</p> <p>特異的 IgE 抗体: 測定可能な場合、投与試験陽性の食物に対する特異的 IgE 抗体 (RAST) を測定した。RAST のスコアは 0~4 で示し、スコア 2 以上を RAST 陽性と判定した。</p> <p>経過観察: 投与試験陽性の食物が確認された場合、その食物の摂取を禁止し、退院させた。投与試験陽性食物の除去効果を確認するために、3 カ月間外来で経過を観察した。3 カ月後に写真を撮影し、投与試験陽性食物の除去前の写真と比較した。皮膚炎の状態を、著明な改善 (50% 以上の改善)、中等度の改善 (25%~50% の改善)、軽度の改善 (25% 未満の改善)、変化なし、悪化の 5 段階に分けて評価した。</p>			

- (備考) 1. 論文内容要旨は、研究の目的・方法・結果・考察・結論の順に記載し、2千字程度でタイプ等で印字すること。
2. ※印の欄には記入しないこと。

【結果】

1. 皮膚炎を悪化させる食物の候補

皮膚炎の不定期的悪化を示す成人アトピー性皮膚炎患者 195 例の各々において、1~5 種類（平均：2.8 種類）の候補が見つかった。

2. 投与試験

皮膚炎の不定期的悪化を示す成人アトピー性皮膚炎患者 195 例のうち、86 例（44%）が、1~3 種類の食物に対して投与試験陽性であった。投与試験陽性の総数は 146 回であった。

3. 皮膚炎を悪化させる食物の種類

皮膚炎を悪化させる食物として、26 品目の食物が確認された。しばしば見つかった食物はチョコレート、チーズ、コーヒー、ヨーグルトおよびもち米、醤油、納豆などの伝統的な日本の食物であった。

4. 投与試験陽性例における皮膚炎悪化の経過

皮膚炎の悪化が食物摂取の 4~10 時間後に起こった回数が 22 回（15%）、11~24 時間後に起こった回数が 105 回（72%）、25~48 時間後に起こった回数が 19 回（13%）であった。投与試験陽性を示した 86 例のすべてにおいて、食物摂取後 3 時間以内に皮膚炎の悪化は起こらなかった。

5. 特異的 IgE 抗体（RAST）

投与試験陽性を示した患者のうち 82 例において、投与試験陽性食物 126 個に対する特異的 IgE 抗体を測定した。投与試験陽性食物 126 個のうち、106 個（84%）が RAST 陰性、20 個（16%）が RAST 陽性であった。

6. 経過観察

投与試験陽性を示した 86 例のうち、77 例を 3 カ月間経過観察した。著明改善が 43 例（56%）、中等度改善が 27 例（35%）、軽度改善が 7 例（9%）で見られた。

【考察】

皮膚炎の不定期的悪化を示す成人アトピー性皮膚炎患者の約半数において、皮膚炎を悪化させる食物が判明した。従来の本症小児患者を対象とした投与試験陽性例において、食物摂取後 2 時間以内に皮膚炎の悪化が起こったという報告が見られるが、今回の研究では、食物摂取による即時型反応が生じた例は見られなかった。大多数の例では、食物を摂取して 10~24 時間後に皮膚炎の悪化が起こった。また、皮膚炎を悪化させる食物に対する IgE 抗体（RAST）は、大多数の例で陰性であった。従って、アトピー性皮膚炎患者の少なくとも一部において、IgE の関与しない皮膚炎の悪化が食物によって引き起こされていると考えられる。

【結論】

成人アトピー性皮膚炎の不定期的悪化において、食物は重要な役割を果たしていると考えられる。

学位論文審査の結果の要旨

整理番号	317	氏名	植西敏浩
------	-----	----	------

(学位論文審査の結果の要旨)

アトピー性皮膚炎悪化における食物の役割はまだ十分には解明されていない。
本研究では、成人アトピー性皮膚炎の不定期的悪化に食物が関与しているか否かが検討された。本研究で得られた結果は次の通りである。

- (1) 皮膚炎の不定期的悪化を示す成人アトピー性皮膚炎患者の44%において、食物が皮膚炎の悪化に関与していた。
- (2) 皮膚炎を悪化させる食物として26品目の食物が確認され、頻度の高かったものは、チョコレート、チーズ、コーヒー、ヨーグルト、もち米、しょうゆ、納豆であった。
- (3) 投与試験陽性症例では、食物を摂取してから11～24時間後に皮膚炎の悪化が始まる症例が72%を占めた。
- (4) 投与試験陽性症例の84%において、特異的IgE抗体(RAST)は陰性であった。
- (5) 原因食物が判明した症例において、その食物を3ヵ月除去したところ、91%の症例で皮膚炎の著明ないし中等度の改善が見られた。

本研究は、成人アトピー性皮膚炎の不定期的悪化に食物が関与することを明らかにしており、本症の原因検索・治療に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士(医学)論文に値するものと認める。

(平成15年8月29日)